

第10回市民参加推進委員会 会議録（概要）

- 1 日 時 平成26年6月23日（月）午前10時～正午
- 2 場 所 流山市役所第2庁舎305会議室
- 3 出席委員 井原委員長、吉永副委員長、今村委員、
上平委員、梅谷委員、野路委員、国府田委員、
和田委員、山中委員、山梨委員
- 4 事務局 渋谷課長、須郷課長補佐、竹之内係長、
影山主査、内田主事
- 6 事業担当課 南雲クリーンセンター所長、樋口副所長、互井
副所長
山崎農政課長、染谷農政課長補佐
小西障害者支援課長、古林障害者支援課長補佐、
矢代障害者支援課長補佐
- 7 協議事項
 - (1) 平成25年度から実施している市民参加対象事業の市民参加の手法についての意見交換会（ヒアリング）について
 - ア クリーンセンター
 - イ 農政課
 - ウ 障害者支援課
 - (2) その他
- 8 協議内容 別紙のとおり

(1) 平成25年度から実施している市民参加対象事業の市民参加の手法についての意見交換会（ヒアリング）について
竹之内係長

本日は、前回に引き続き、平成25年度から現在も継続中の10事業を所管する8課のうち、委員会において抽出した2課（クリーンセンター、障害者支援課）と意見交換を行う。

また、平成25年度に事業が終了している農政課所管の「流山市農業振興基本指針」については、昨年度と同様に市民参加条例に基づく市民参加が適切であったかの評価等を行うため、昨年度同様に農政課とヒアリングを行う。

1課にあたり、概ね30分を予定し、事業及び市民参加の手法についての説明に10分、質疑・応答で20分としたい。

なお、意見交換後、会議録（概要版）については、意見交換会を行っていない課等に対しても、市民参加条例について、再認識させる意味でも、意見交換会終了後、早急に全庁に配信する。

評価シートについては、昨年度の委員会において、評価基準の変更を検討されたいという意見があったため、評価シートを作成した。

変更点は、評価項目を6項目から4項目、事業の評価を3段階評価から4段階評価とした。

次に、各委員からの評価シートをまとめ、事務局において、次の委員会までに委員会（案）として配布したい。

そのため、6月27日（金）までに事務局に提出されたい。

井原委員長

今回は農政課のみが答申の対象となっている。評価シートが変わったので委員会で協議したい。

《委員了承》

井原委員長

評価シートは金曜日までに事務局まで提出をお願いしたい。

ア クリーンセンター

井原委員長

それでは、クリーンセンターのヒアリングを行いたい。

(南雲クリーンセンター所長から事業概要の説明)

上平委員

1人一日当たりのゴミの量の数値を市民の方にどういう形でPRしているのか。自分は、数字を市民として見たことがない。

南雲クリーンセンター所長

毎年、『清掃のあらまし』を発行しており、この中で費用、収集状況、廃棄物の処分量などをすべて記載している。これはHPに掲載しているものであり、情報公開コーナーにもある。

上平委員

HPに掲載は理解できるが、HPを見ない人には広報が一番身近であり、こうした大事な数字は広報に載せるべきだと思う。

ごみ発生量(g/人/日)871は具体的に説明がないと、ゴミについて実感することができないため、アンケートに回答する時も正しいコメントができないと思う。

PRについても考えて欲しいという感想がある。

南雲クリーンセンター所長

ゴミ発生量のような情報を市民に知ってもらうことで、分別や大量廃棄、リサイクルからの脱却が図れると思う。

意識改革のために広報等で情報を公開していきたい。

山中委員

審議会は、開催はされているのか。公募市民を選考中とのことであったが。

樋口クリーンセンター副所長

今の審議委員の任期が7月3日までのため、新たな委員を募集している。

山中委員

意識調査のためのアンケートの内容（質問項目）は。

南雲クリーンセンター所長

比較するために前回平成21年に実施したのと同じものを使用した。

互井クリーンセンター副所長

項目は、収集袋について、レジ袋削減のためにマイバック持参について、袋は店で買うか又は再利用しているのか、地域でのリサイクル活動についての参加意識について等33項目であり、日常生活でゴミを出すにあたって困ることを吸い上げる意図があった。

新たな質問として小型家電などは販売店に回収してもらうかという質問を加えた。

井原委員長

アンケート調査項目を継続的にやっているのなら、PDCAサイクル（Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する）があると思うが、行政はアンケートを集計し、何か検討したのか。

互井クリーンセンター副所長

速報値は示したが、検討は、まだやっていない。

井原委員長

過去の検討は。

南雲クリーンセンター所長

アンケート調査により、マイバック（持参率の向上）、レジ袋の有料化など浸透している。

また、資源ごみの回収は行政回収と集団回収を行っていたものを一元化し集団回収としたが、これは、アンケート調査のデータに基づいて情報発信した。

資源ごみが燃やさないごみとして出されていることもあるので、現在はクリーンセンターの中で資源化しているが、集団回収でや

ってもらえるよう PR していきたい。

井原委員長

アンケートを書いた人の気持ちをくみ取って欲しい。

野路委員

今回は、計画の見直しがポイントであると思う。

資源ゴミをできるだけリサイクルするという考え方があるが、ゴミ量を本当に減らそうとする市としての意識が弱い気がする。

これは市民参加を促すのではなく、市民が参加しなければならない。市民参加が多ければ、(ごみ量)は減る。

毎年自治会の担当者を集めて会合を開いていると思うが、その中で今回の話を説明しているのか。自治会を通じて市民にフィードバックされることも可能性がある。その辺りの工夫を検討されたい。

以前、有料化問題で市が頑張っていたが、その頃の積極性を持ってほしい。

南雲クリーンセンター所長

ごみ減量等推進会議を年2回開いている。

発生量の話などもしているが、推進委員から地元でお話しをしてもらえるようお願いしている。

また、ケロクル会議として出前講座を行っており、申込みがあれば出向く。井戸端会議のような形でも構わないのでいつでも行える体制をとっている。

有料化の検討時は、ごみが右肩上がりに増えていたこともあり、社会情勢等もふまえて動いていた。しかしその後、発生量は減ってきており、今回も中間目標として1日あたり1人当たり発生量を21年度は921グラムという目標を立てたが、25年度結果は911グラムと減っている。これは、有料化である程度抑止力が働いたことも考えられる。

野路委員

出前講座だが、どの程度稼働しているか。

南雲クリーンセンター所長

25年度はなかった。

ただし、以前、容リプラの分別変更を行ったときは、ほとんどの自治会をまわって説明した。

野路委員

現在の目標値（ごみ発生量）を871グラムとあるが、ごみ袋にビジュアルでいうとどのくらいなのか。

南雲クリーンセンター所長

ペットボトル等もあるし、厨芥ごみもあるので。例えば厨芥ごみについては水気をちょっとしぼるだけで変わる。

野路委員

そこをわかり易くするのが参加させる一つの方法である。わかりやすく説明する方法を工夫されたい。数字ではピンとこない。

南雲クリーンセンター所長

40リットルのごみ袋だとこれはいくつとか、レジ袋でいくつとか。一般的なレジ袋は30センチくらいなので20リットルくらいなのか。

井原委員長

つまり、「目標値871」というのも行政用語である。行政用語を使用しないようにということで、昨年答申した。「目標値871」をまず検討しなければ市民の理解が得られないと思う。

例として、郵便局は長い間グラムでしか受け付けなかったが、民間の宅急便は、縦横高さで誰でもわかる大きさに受け付けるようにした。つまり民間のように考えなければならないということである。

南雲クリーンセンター所長

今後検討したい。

今村委員

アンケートの回収率の目標値と、それに対しての結果を教えて

欲しい。

これまでの回収率、また実施期間が4月30日だったにも関わらずまだ集計ができていないことは遅いのではないか。

南雲クリーンセンター所長

集計等は昨年度までコンサルに委託していた。今年は、職員が行っており、集計等を専念できれば時間はかからないと思うが、時間外を削りながらやっている。

集計結果等は、次の廃棄物審議会に現状報告する予定である。

アンケート調査の目標値は、40～50%の間が多い。

今村委員

社会福祉課は、郵送によりアンケートを実施し、(回収率が)80%があった。努力をされたと思う。

これは世代が限定された調査であることも関係はしていると思うが、例年は40～50%ということか。

南雲クリーンセンター所長

50%を超えれば、回収率は高い数字だと個人的には思う。

上平委員

答える側が答えようと思わなければ出てこない。(回収率が)80%を超えるのは答える側にとって、テーマがよかったかもしれないし、聞き方がよかったのかもしれない。

アンケートをする側の気持ちではなく、受ける側の立場になって作成して欲しい。市民の方にアンケートを作成後に市民にきくなり、工夫が必要だ。

南雲クリーンセンター所長

確かに設問が多いと嫌になることが考えられる。簡単に丸をつけたりするのであれば楽だが…

アンケートにより色々聞きだしたということから33項目になってしまい(アンケート調査の回答に対し)面倒くさいという気持ちにさせたかもしれない。

梅谷委員

市民参加を今なぜやらなくてはいけないのかという理解が非常に低いと感じる。

単に市民参加条例に明記されている手法をやることが市民参加なのか。ゴミの問題を考えた時に、市民にどのような参加（の手法）をして、結果を出していくことを踏まえるのが市民参加なのか、組織を挙げて考えてもらいたい。

山梨委員

一人あたりのグラム数がでていたが、総合数を割った数なのか。スーパーに出す、スーパーから出るゴミも入っているのか。

また、雑草は入っているのか。

南雲クリーンセンター所長

スーパーのトレイなどはカウントされていない。ただし市の収集事業業者が集めてきたもの（事業系ごみ）には入っている。

雑草は、その扱いが微妙であるが別枠で入れている。（昔から燃やすごみで回収していたものなのでカウントしている。）

国府田委員

現在、意識的にゴミ出しをやっているが、息子が引越でクリーンセンターへ直接搬入をやった。センターの対応は、丁寧できれいで親切であるが、こうしたことを市民は知っているのか。

また、（直接の搬入は）10kg単位なので、もうちょっと細かく分けて欲しい。

南雲クリーンセンター所長

計測器は、高価であり、維持管理費も相当かかる。今10kg単位でやっているが、細かくすると高い計量機が必要になってくる。

なお、自己搬入しても有料である。基本的には大きなごみを自己搬入してもらおう形、あとは粗大ごみ処理券を買って処理している方もいるが、自分で持ってきた方が安い場合もあるため、粗大ごみの扱いについて窓口で説明を行っている。

井原委員長

市民目線に立って、説明をお願いしたい。

イ 農政課（市民参加条例の運用についてのヒアリング）

井原委員長

説明をお願いしたい。

（染谷課長補佐より概要の説明）

国府田委員

一般市民からは、なじみが薄いですが、流山市は都市型農業振興としての立地環境で最適なところだと思った。

一般市民向け、農業従事者向けアンケートと細かくされていて、審議会へのアンケート等も非常によくできていると思う。

しかし、農業従事者のアンケート結果が不本意だと思うが行政としてなぜであると思うか。

都市型農業は、関心が薄い事項であるため、(アンケート結果は)仕方がないのかと思うが、農政課としては受け止めているのか。

そのため、審議会の委員から専門的な意見をきいていると思うが、アンケートと意見との乖離を知りたい。

また都市型農業の今後の方向性に農事者の方に啓蒙されているのか。

山崎農政課長

農業従事者への啓蒙は、毎年事業関係の農家回覧を行って事業の周知をしている。

47%のアンケート回収率は、農業名簿世帯数で861世帯あり、自分で食べるだけ、企業としてやっている世帯があり、実際の企業として農業を行っているのは360世帯程度しかない。

私としては、業務として農業をやっている方だけにしぼれば、高い回収数値だと思っている。

アンケートには、担い手不足があげられており、自分の代でやめたいと意見もあった。審議会は、農業を守っていくという考えに基づいているので、意識に乖離が生じていると思っている。

染谷課長補佐

反省点は、インターネットによる結果が少なかった。広報だけでなく、他の施設や商工会議所等にもPRするよう今後の改善にしていきたい。

山中委員

「森のマルシェ」に出店している子育て中のママさんから、一時期流山がホットスポットであったため、最近のママたちの意識調査を独自に調査し、1時間～2時間で100人以上に話をきけた。

アンケートはポイント（課題、方向性）を定めれば、回答してもらえるアンケートをつくることはできるはずである。

農業従事者だけでなく、野菜を手にする市民（農業に関心もある人）はたくさんいる。今回の市民参加は基本構想の調査が狙いだと思うので対象者も幅広くして頂きたかった。

野路委員

山崎課長の話の中で861世帯に対しての回答率が高いか低いかであるが、企業としては370世帯あるなら、そこに絞った回答率は出ているか。

現実に農政課は、農業従事者を対象にしているとは思いますが、きちんと正確性をもって捉えるべきである。

いわゆる市民参加というよりは、ある枠の中での市民参加も意識する必要があると感じる。

山崎農政課長

農業行政をやるにあたり、農家の意見を聞いて行政に反映させるというのが本来の形である。

先日50歳くらいまでの若い人たちとの意見交換会を設けたら、今後もそのような会議を行い農業行政に反映させていきたい。

井原委員長

どのような市民参加を選択するか、意見交換会や住民説明会もありうる。もし若い担い手の意見を聞くというポリシーがあるの

ならば、関係のない人から意見を聞くよりも、予算や努力があるならば意見交換会を頻繁に開かれるというのも大事である。

和田委員

意見を聞く方法として、スーパーとか野菜売り場にアンケートを設置すれば、幅広い意見を聞くこともできるのではないか。

我々も現物（野菜等）を見て意見を言いたいと思うはあるが、わざわざHPを見てとまでは思わない。

今村委員

アンケートの中で40歳以下が13%となっているが、若い人というのは何歳が想定か。

山崎農政課長

20歳代～50歳ぐらいで、すでに農業をしている人が対象の25名中16名に参加いただいた。

今村委員

16名のうち13人がアンケートに回答しているとあるが。

染谷課長補佐

実際は、世帯の中で主としてやっている方に（アンケートに）答えて頂いたが、60、70歳代が増えてしまう。そのため、別の視点で意見をきいていこうという風にした。

上平委員

農家回覧式アンケートとあったが、世間ではJAの解体が話題となっている。農家がアンケートに答える際に、JAの意向が入ってはいないか。

産業振興審議会で意見をきいたとあるが、産業振興審議会は、農家だけでなく、流山の産業全体を審議している委員会だとは思いますが、どうして農業について依頼をしたのか。必ずしも農業に精通しているとは思わないし、農業そのものについての意見というのは出てこない気がする。

山崎農政課長

J Aについては、農家回覧は、農政課の年間事業を農家に伝えるために利用している。また、今回のアンケートについては郵送で個々に行っているため、J Aからの指導等はないと思う。

梅谷委員

J Aには、(今回の計画について)聞かなかったのか。

山崎農政課長

聞いていない。

染谷課長補佐

産業振興審議会での意見徴収であるが、多方面に精通し、広い見識のある方から意見を聴取した。その中には農業経験者もいるためアンケートの結果を踏まえて聴取した。

梅谷委員

パブコメをやめたのは新しいトライだと思った。その他の手法についてだが農家をどう支援するかという立場であるが、農業従事者は市民と直接触れ合いの場があると、自分たちも市民も気づくという話がある。

全国で農業活性化が発達しているところは、実は行政より、地域の声を生かす、農家でない市民の方が意見を出すとうまくいくというところが多い。

市役所であれもこれもというのではなく、農家に任せるという場を作ってはどうか。そうした場を支援するというスタンスとるのも一つの方法ではないかということで6つめのその他の手法として考えてみてはどうか。

和田委員

流山高等学校は農業高校であり、そうしたところの意見をきいて、流山市がどうした農業を目指せば彼らが農業を継ぐのか、そうした視点を持つべきである。

山崎農政課長

流山高等学校は、農業専門ではなくなってきた。1年に1回会合にでているが、農業の雇用の場を作って欲しいという声があった。

農業を企業化していきたいという農家に対して、立ち上げの資金を支援することにした。そうしたところで高校とは連携しており、25年度は1件支援することができた。今後色々検討したい。

国府田委員

確認だが、農業振興基本指針は農業の方向性を示すものとあるが、色々な意見の乖離があると思うが、そのまま進むのか、それとも意識統一を図ってから方針を決めるのか。

染谷課長補佐

流山市の場合は、流山市の農業振興地がないので、その中で農業はどうしていったらいいかということで今回の方針を作っている。

流山市の農業の衰退が進む中で、今後継続するための指針や今後の手段を整理したものがこれである。

井原委員長

指針はみられるか。

染谷課長補佐

HP上で指針を掲載している。

井原委員長

その部分を委員に知らせて欲しい。

ウ 障害者支援課

井原委員長

説明をお願いしたい。

(小西障害者支援課長より概要の説明)

今村委員

アンケートの回収率は。

小西障害者支援課長

54.5%の回収率となっている。

今村委員

回収率としては高いのか。

小西障害者支援課長

50%を超えてよかったと思うが、70%を目標にしていた。

和田委員

流山高等学園という施設があるが、その生徒から意見を求めてみる等の計画はあるか。

(生徒は)市民だけではないとは思いますが、流山市で生活をしているという点で有効かと思う。

小西障害者支援課長

検討したい。

山中委員

新たに市民参加の対象にした福祉手当だが、一部減額になる市民もいるということであるが、こちらについてのアンケートはやっていないのか。

小西障害者支援課長

こちらについてはアンケートをしなかった。なるべく直接声を聞くために障害者団体に集まっていたいただき意見をきいた。

たしかにアンケートの中で福祉手当についても1つだけ入れたが、これをこちらの手法としてあげるまではしなかった。

井原委員長

現状のパブコメの件数は。

小西障害者支援課長

パブコメは、現在実施中で15件である。一週間期間はある。

今村委員

パブコメの15件の内訳は。

小西障害者支援課長

賛成が1件、残りは反対もしくは不明。

傾向として、反対意見は「生活に響く」、賛成の意見については福祉手当の方法の見直しを含め、主旨に賛同して切り捨てではなく古くなった制度を組み替える」という意見があった。

井原委員長

大半が反対だった場合、行政としてはパブコメの意見をくみとって何かするのか。

小西障害者支援課長

条例の素案に反映するか、今後慎重に検討していく予定である。

野路委員

ニーズを把握するという観点から5千人という数字があったが、アンケートを出すのか、それとも担当課で把握している対象者の数か。

小西障害者支援課長

障害者手帳を持っている方が市内で5千人程度いる。

野路委員

そういう方たちと、一般市民のニーズに関わることだと思うが、一般市民に対する説明はどのように行うのか。

小西障害者支援課長

介護支援計画と同時期に行われるため、介護支援計画の説明に合わせて同時に出席し説明していく。

第4次、第5次の計画については、地域説明会を実施しているので同じように進める。

(2) その他

竹之内係長

今回は7月14日 午前10時から301会議室で行う。別途通知する。

次回は農政課所管の評価シートの委員会としての意見をまとめて頂きたい。メール等で評価シートを提出いただきたい。なお、委員会のシートについては、事前に配付したい。

またA～Dの評価については、次回の委員会で決めていただきたい。

井原委員長

7月14日はひとまず農政課のものをまとめて、その次の9月1日に答申について検討する。

梅谷委員

市民参加条例に重きをおくのか、市民参加全体に重きをおくのかそのスタンスがわからないと全然違うものになる。

希望としては市民参加という広い視点で評価すべきだと思っているが。

渋谷コミュニティ課長

市民参加条例のコンセプト自体は、市政が市民の皆様に対してどう動いていくか、これから決めていくものに対して市民のニーズにあっているか確認することが主旨だと思う。

それぞれの政策や施策が適切にみなさまの声を反映しているか、今回のヒアリング等から条例の主旨にそった形で適正であったかどうかを視点にしてもらいたい。

井原委員長

条例にこだわると可になってしまうので、誰にきいているのか、形式的にやっても市政に反映できているのかとかそうしたことも言及したい。

梅谷委員

市長は諮問の中で「市民参加を進めるために…」とある。

山中委員

条例にとらわれずに評価していいということか。

渋谷コミュニティ課長

聴き方が適切であったかという視点でお願いしたい。

国府田委員

事務局からみて委員会に対しての評価を総評してもらいたい。

井原委員長

事務局から総評していただいてはどうかということだが。

渋谷コミュニティ課長

内部意識を含めてか。

野路委員

総評というのは、行政が条例に基づいてヒアリングの中から評価するのか、去年からの進歩を捉えた行政に対する総評なのか、何年かたてば見えてくるとは思うが難しいと思う。

たしかに去年より充実しているし、見やすくなっていると思うが簡単なものになってしまう。

また、市民参加全体への話がでてくるとなれば、その辺りは調整して欲しい。

吉永副委員長

コミュニティ課としてのまとめ方のご提案と、委員会としての最後のまとめ方とで食い違っているので、コミュニティ課の方で2年間の所見を書いてもらって、それでいいかという相互の理解のきっかけを作って欲しい。それを答申に含めるのかということとは別である。

渋谷コミュニティ課長

副委員長がおっしゃったように2年間をまとめて提示するので、議論いただきたい。よろしいか。

《委員了承》

井原委員長

以上で会議を終了する。